第３回　コウノトリ但馬空港のあり方懇話会　議事概要

日　時　　令和３年 11 月 29 日（月）14:00～16:00
場　所　　但馬空港ターミナルビル１階　多目的ホール

１　コロナ禍が及ぼす航空需要への影響

・コロナ禍の影響により、現状では航空需要は安定していない。特にアジアはシビアで先を見通すことは難しく、楽観できない。
・今後、航空需要は全体としては急速に回復していくものと考えられる。しかしながら、需要の回復過程で全ての航空路線が均一に回復基調をたどるとは限らず、回復に偏りが生じる可能性もある。
・但馬空港の利用者数のうち、今年度の 10 月、11 月の 2019 年度比については国内線全体の平均を上回っている。これは、私用による移動、生活需要の客が多い路線のためだと考えられる。全国的にも同様の路線は回復が早い傾向がある。生活路線では医者や通院の客も多く、回復が顕著である。
・航空事業者はこの回復傾向を受け、減便を少しずつなくし、元の姿に戻そうとしている。

２　今後の但馬地域が目指す方向

・但馬の豊かな観光資源や食が産業振興の大きな柱であったが、コロナ禍はもちろんのこと、ここ 10～20 年来の過疎化、少子高齢化、若者の都市部への転出による人口減少等々で地域経済は非常に大きな影響を受けてきている。
・但馬の経済活性化に向け、手を打ってきているがなかなか容易ではない。その中で、但馬空港があることのメリットを活かす戦略がこれからは必要。
・観光資源を活用した関係人口を増やしていくことが重要。
・チャーター便によるツアーを北近畿エリアだけでなく、鳥取も含めるなど、広域の観光ルート設定ができれば良い。
・大都市圏は人口が多くターゲットは多いが、地方間の交流も狙っていくべきではないかと考えている。今後、地方から地方への宣伝もしていきたい。
・ビジネス利用の観点では、オンライン、テレワーク、ワーケーション等のキーワードが出てきており、交流人口、関係人口が増加することは良いことだが、それを受け止める側の人口がいなくなっては将来的に対応できなくなる。但馬地域の最大の問題は人口減少である。そこで、移住、U ターンしていただける方もターゲットにし、その中で東京、地方を行き来していただくという利用も活発化させていかなければならない。

３　利用回復及び但馬空港の活性化に向けた取組み

(1) 旅客の増加への取組み

①需要の開拓

・但馬空港推進協議会ではビジネス向けの利用促進施策を色々考えている。できるだけ早く実効性あるものを打ち出していきたい。

・首都圏から豊岡へは製造業の工場視察というニーズもある。

・青年会議所は全国で 600 を超える地域団体や、韓国の青年会議所との交流もあり、交流の機会に航空機をうまく活用すれば、但馬空港の今後のあり方も見えてくる。

・何回も但馬に通ってくれるような人、何回も但馬空港を利用して訪れてくれるような但馬ファンを増やしていくことが大事。

・養父市や新温泉町でワーケーション事業の取組みが始められており、多拠点の居住という流れをうまく取り込むことが必要。

・今年 11 月に鹿児島のチャーター便のツアーが実施されたが、初日は姫路、２日目は生野銀山、竹田城、３日目は天橋立方面を観光している。北近畿豊岡自動車道開通により但馬地域はもとより、播磨地域までも空港からの着地型ツアーのエリアに入ってきている。ツアー客からは伊根町の観光要望もあった。山陰近畿自動車道や北近畿豊岡自動車道もどんどん延伸されてきており、今後、観光の対象範囲は北近畿全域に拡がっていくのではないか。

・但馬空港の利用促進について、今後、ビジネス関係、専門職大学の学生や家族への助成も行い空港利用に拍車がかかる方法を考えていく。

・航空路線は相互の交流が大事で、どうしても人口の多い地域からの往来が多くなる。これからは、但馬空港から出発する利用者をどのように増やしていくかにも踏み込んでいきたい。

・山陰近畿自動車道の整備が進んでおり、舞鶴、宮津、福知山、綾部の京都府北部 30 万人の圏域が利用のターゲットとなる。福井県西部も空港がないため困っていると聞いている。高速道路を利用すれば但馬空港利用の圏域に入ってくる。

・高速道路網の整備が着々と進んでおり、空港を利用する後背圏人口も増えていると感じている。今まで空港を利用していなかった人が、空港に近くなり、そこから短い時間でどこかに行けることを PR できる。

・今すぐできることとして、チャーター便や遊覧飛行など、地元のみなさんに、まず飛行機に親しんでいただくこと、空港に来る動線、空港で航空機に乗る体験をしていただくことは非常に意味があること。

・但馬地域周辺の人にも空港利用を呼びかけていけば、但馬地域がメリットを受けることになるのではないか。

・利活用促進については、離島でやっている手法が使える。幼少期に（離島留学

等で）２年間ぐらい離島で過ごすと、小さいときに離島と関係を持ったということで、後々リピートして訪れている例がある。

・利用促進のために運賃補助する取組みには限界がある。キャンペーンが終われば乗らなくなる。運賃補助のような経済的な便益だけでなく、行ってみたくなるような情緒的な便益を同時に仕掛ける必要がある。

・観光客は飛行機で但馬空港に降り立った後、必ずしも便利な移動を望んでいるわけではない。ビジネスの観点とは異なる特殊性もある。道中に見られる景色、意外な発見、出会いを楽しみ、ワクワクやドキドキを連続させながら、ジオパークや城崎温泉に到着することを望んでいる。

・芸術性の高い街の空気をゆっくり楽しみながら、環境に優しい交通手段で移動するスローツーリズムは大きな魅力である。

・飛行機に乗ることを目的化するなら観光列車のような「観光飛行機」を運航するのも面白い取組み。

・芸術文化観光専門職大学の学年定員は８０名。４年後には３２０名となり、教員職員も８０名程いる。彼らの８割以上は県外の出身者。航空機の利用に抵抗のない若い世代が市内に住むことになるので、彼らの地元との往来はもとより、家族の訪問時にも航空機の利用が中心。活発な利用につなげたい。

・豊岡演劇祭が本格展開できれば、全国から但馬地域に観客が集うことになる。昨年度は５千人の観客が訪れ、今年はコロナ禍で中止されたが１万人を見込んでいた。当面は伊丹経由での往来となるが、航空機利用は時間距離が縮まり、演劇祭の活性化につながる。

・時間距離が縮まることで体の負担軽減にも繋がるので、約 200 人の劇団員は月 40～50 人が東京・但馬間の移動に航空機を利用している。航空路線があればその速達性から、拠点と活動の場を一緒にする必要がない。

・将来的には世界中からアーティスト、観客を呼び込む。但馬空港を利用した移動利便性の一層の向上に期待している。

②多様な路線展開

・青年会議所では、過去にチャーター便事業を実施し、空港の利活用促進に取組んできた。チャーター便は一定数の利用者が広いエリアを移動でき、非常に魅力がある。

・但馬空港から直行でなくとも海外に向けた速い交通手段が望まれる。

・需要を高めていくためには、輸送サービスを便利に、行き先を多彩にすることが必要。

・但馬－伊丹路線の需要を高めながら、東京直行便をはじめ多彩な行き先をどう確保していくかも検討してほしい。

・新規就航先として首都圏を目標にするのであれば、まずは就航可能な空港へ就航し、実績を積むのが良い。
・チャーター便で来られた方は姫路にも行っている。福井県西部の方の利用も考えられる。但馬空港に羽田直行便ができれば、丹波、播磨地域からの需要も見込めるので、但馬空港の利用者数は増えていくのではないか。

③空港サービスの改善

・ビジネス需要については、滞在時間延長や就航率向上によって、まだまだ伸ばせる余地がある。
・仕事で首都圏から但馬に帰ってくる場合、東京出発が 15 時になり、東京での滞在時間が短いために日帰りが難しい。また、一泊した場合でも翌日の午前中で仕事を切り上げないといけないため、せめて東京 17 時発にならないかという声が多い。
・航空機が利用できても現状では乗り継ぎが必要だったり、到着時間帯が限られるためなかなか来てもらいにくい状況にある。それらが解決されると、利用促進につながっていくのではないか。
・国内法に規定される滑走路端安全区域（RESA）の整備を実施するとともに、最新の航空保安システムを活用した就航率の改善策についても、投資効果を見極めたうえで、積極的に講じることが望まれる。安全性及び信頼性の確保・向上は、航空需要増を図っていく上で、欠くことの出来ない基本要件。

④その他

・ビジネス需要については、今後、働き方改革の一環でワーケーションの需要が少しずつ増えてくるのではないか。
・2025 年の大阪・関西万博が需要回復の大きな契機となる。但馬地域が日の目を見て前進するきっかけとなるように努力する。
・但馬空港においては、全国の需要回復の動きに取り残されることがないよう、地域主導による積極的な需要拡大策を講じていくことを期待。

⑵ 空港の賑わいづくり

・芝生広場を活用してグランドゴルフ大会の開催も良いのではないか。グランドゴルフ大会は高齢者だけではなく、小学生から参加ができ、ファミリー層での交流ができるため、地域の賑わいづくりに繋がる。
・但馬空港から飛行機で、大阪の市場に但馬のカニや野菜を飛行機を使って持っていく。高速道路で行くのと比べ、時間距離の短縮にはならないかもしれないが、飛行機でということだけでも箔がつくのではないか。

(3) その他の意見

・但馬路線のビジネス利用については、多いのは鞄関係の業者、大手企業、銀行、会計事務所、酒造会社や大学関係者。

・香美町の水産物の知名度は、北陸や北海道に比べ低く、首都圏での PR 強化の必要性を感じている。

・今年 11 月に東京での展示会に参加したが、その際に航空機を利用した。航空機は、速く安く楽ができる移動手段。物流についても早く物が届けられる。商談においては対面することが大事である。

・ビジネス客の速く、安く、確実な移動要求に応えるためにも滑走路延長、ジェット機の就航、東京直行便の実現を但馬地域の経済界は望んでいる。

・2,000m級への滑走路延長については、ぜひ実現して欲しい。